

こくりこ日記

高田昭子のb2evolution blogです

アーカイブ: 2008年10月

2008/10/31

01:08:33, カテゴリ: [百人百詩](#), views: 641 

百人百詩—043



逢ひみての後の心にくらぶれば昔はものを思はざりけり
中納言敦忠

権

嵐の去った午後
冷たいガラス窓に額をつけて
後朝の使いを待っている
それは少しづつ温度をあげて
静かな炎になろうとしてる

• [編集](#)



2008/10/30

17:35:28, カテゴリ: [百人百詩](#), views: 671 

百人百詩—042

こくりこ日記

高田昭子のb2evolution blog
[吸殻山383番地の家に戻る。](#)
[中央1番地に戻る。](#)

- [最新 \(キャッシュ\)](#)
- [最新 \(キャッシュされない\)](#)

<u>2008年10月</u>						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	
5	6	7	8	9		
12	13	14	15	16		
19	20	21	22	23		
26	27	28	29	30		
<<		<				

- [最近のコメント](#)

Heavy Hitters

- [Test \(20 visits\)](#)
- [Walking1日目。 \(20 visits\)](#)
- [詩の歳時記—56 \(20 visits\)](#)
- [引用文—23・あきらめ](#)
- [詩の歳時記—117 \(19 visits\)](#)
- [詩の歳時記—82 \(19 visits\)](#)
- [花守 \(19 visits\)](#)
- [かぼちゃな一日 \(19 visits\)](#)
- [詩の歳時記—305 「冬 visits\)](#)
- [詩の歳時記—274 「あ visits\)](#)
- [詩の歳時記—253 「桃 visits\)](#)
- [詩の歳時記—123 「桜](#)

検索

- 全ての語
- いずれかの語



(Photo by KIRI)

契りきなかたみに袖をしばりつつ末の松山波こさじとは
原元輔

清

歌枕 末の松山
神のおわします社を
波が越せることができましゅうか?
涙とともに交わした約束を
なきものとできましゅうか?

• [編集](#)

2008/10/28

14:09:57, カテゴリ: [百人百詩](#), views: 789

[百人百詩一041](#)

フレーズ

検索

カテゴリ

- All
- [百人百詩](#) (100)
- [詩の歳時記](#) (365)
- [詩日記](#) (20)
- [My Haiku](#) (49)
- [Walking](#) (13)
- [引用文](#) (31)
- [日記](#) (163)

選択

アーカイブ

- [2015年11月](#) (1)
- [2015年7月](#) (1)
- [2015年5月](#) (2)
- [2015年3月](#) (3)
- [2015年2月](#) (2)
- [2015年1月](#) (3)
- [2014年12月](#) (2)
- [2014年11月](#) (2)
- [2014年10月](#) (3)
- [2014年9月](#) (2)
- [2014年8月](#) (2)
- [2014年7月](#) (2)
- [続き...](#)

いろいろ

- [管理](#)
- [プロフィール \(admin\)](#)
- [ログアウト \(admin\)](#)

このブログの配信

- RSS 0.92: [投稿](#), [コメント](#)
- RSS 1.0: [投稿](#), [コメント](#)
- RSS 2.0: [投稿](#), [コメント](#)



(Photo by Garakutabako)

恋すてふ我名はまだき立にけり人しれずこそ思ひそめしか
壬生忠見

しずかな秋風が立つ
わたくしの心にかくされた思いが
世俗の音楽のように流れだす
もう止めようもないこと
まだ無音のままであれと願ったのだが……

・[編集](#)



2008/10/27

01:58:22, カテゴリ: [百人百詩](#), views: 831

百人百詩—040

■ Atom: [投稿](#), [コメント](#)

[What is RSS?](#)

powered by
b2evolution



しのぶれど色に出でにけりわが恋は物や思ふと人の問ふまで
平兼盛

しのんでいたはずなのに
のぞかれてしまった恋
無為（ぶい）に生きる日々に
恋情はかくす手立てもなく
どうしたのかとたずねられ……

* * *

acrostic (^ ^) 。

• [編集](#)



2008/10/25

10:41:24, カテゴリ: [百人百詩](#), views: 624

百人百詩—039



(Photo by KIRI)

浅茅生の小野のしのはら忍ぶれどあまりてなどか人の恋しき
参議等

茅がゆれるさみしさ
篠竹のざわめき
哀しみはなだめられるのか
ひとへの恋しさが
ふつふつと音をたてている

• [編集](#)



2008/10/22

20:44:57, カテゴリ: [百人百詩](#), views: 744 

百人百詩一038



(Photo by Denden)

忘らるる身をば思はず誓ひてし人の命の惜しくもあるかな

右近

「忘れない」という誓い
「神」にかけたというひとは
いつかは重い罰を受けることでしょう
忘れられたわたくしよりも
その苦しみはいかばかりか

• [編集](#)

2008/10/20

08:40:10, カテゴリ: [百人百詩](#), views: 630

百人百詩一037 (賓客・解醒子殿)



(Photo by Garakutabako)

白露に 解醒子殿

延喜御時哥めしければ
白露に風のふきしく秋のゝはつらぬきとめぬ玉ぞちりける 文屋朝康

暑さはなかなか去ることをしないが、風の匂いなど、もう盛夏のものではない。サイフを握りしめて買い物に出る。ふだんは部屋に引き籠もっている、一周一時間の、これが男のまいにちの労働だ。町に出るには大きな踏切を越えてゆく。フルセットにもなると合計六本の列車の通過を待たねばならない。時間がもったいないときには大踏切の上をまたぐ横断歩道橋を渡る。歩道橋にはなぜか決まって、半ば乾燥しかけた盛大な開花みたいな嘔吐の跡や、近くに競輪場があるせいか、車券や湿った新聞などが散乱していて、それを避けつつ向こう側の町に下りる。まず中華料理屋へ入って、モヤシソバ六八〇円を食い、千円を出しておつり三二〇円を受け取る。その足でコンビニエンスストアへ行き、宅配便を元払い出する。六四〇円なのでまた千円を出し、三六〇円を受け取る。これで硬貨は六八〇円。内訳は、百円玉六枚と五〇円玉一枚と十円玉三枚。これで硬貨一〇枚。細かい硬貨はできるだけ減らしたい。夕食の材料を買いにスーパーマーケットに入る。卵小一七八円と中華麺九八円とプレンヨーグルト一八八円、それに豚バラスライス一〇〇グラム一八四円と隠元一九八円、トマト一盛り三〇〇円、それに名水もやし三八円を籠の中に入れ、レジに並ぶ。合計一一八四円。千円と二〇〇円を出してつりをもらうと一六円、これで細かい硬貨は四九六円となり、かえって増えてくるので何とかしなければならない。一〇〇円玉四枚、五十円玉一枚、十円玉四枚、五円玉一枚、一円玉一枚。また跨線橋を越え、住宅街のほうに戻って、ベーカリー「ビオレ」で発芽玄米食パン一斤を買い、二三一円を出し、二六五円とすることで、この硬貨一一枚を一拳に五枚に減らす。それから隣の鮮魚「魚徳」に寄り、かんぱちのサク七六〇円を求め、また千円を出してそれに細かい硬貨二六

〇円を足して渡し、五〇〇円玉を得ると、なんと硬貨はその五〇〇円玉と五円玉一枚まで減る。そこから秋風に吹かれつつ広い勾配を徐々に上って生協に寄る。ふと足りないものがあるのを思い出したからだ。公園の脇の生協の扉を開け、猫にやる鶏ささみのパックを手に取る。二〇八円。ついでに生協林檎ジュースを入れ、レジにまた並ぶ。鶏ささみと林檎ジュースの値段が打ち出される。林檎ジュース二九八円。合わせて五〇六円。男はあることに気づくがもう引き返せない。千円を渡した男の手に四九四円の硬貨の重さがざらりと移される。サイフに残る五〇五円と合わせ、九九九円。五〇〇円玉一枚、百円玉四枚、五十円玉一枚、十円玉四枚、五円玉一枚、一円玉四枚の、合わせて一五枚の硬貨のフルセットが、玉ぞりける。もう買うものは何もないのだ。

* * *

この詩の凄さに圧倒されました（＾＾）。
掲載は「リタ」に先をこされてしましましたが。。。

<http://www.t-net.ne.jp/~kirita/kurata/kurata84.html>

今回の特別にお願いして、お借りしました。
お楽しみくださいませ。

・編集



2008/10/19

17:13:28, カテゴリ: [百人百詩](#), views: 731

百人百詩—036



(Photo by KIRI)

夏の夜はまだ宵ながら明けぬるをくものいづくに月やどるらむ
清原深養父

短い夏の夜
月は天をめぐりきることができるのだろうか
明ける空に追われて
あの山陰にかかるる暇もなく
雲の陰にいるのではないか

[1コメント](#) • [編集](#)



2008/10/17

□ 21:14:31, カテゴリ: [百人百詩](#), views: 737

百人百詩－035



(Photo by Garakutabako)

人はいさ心もしらず故郷は花ぞむかしの香ににほひける
之

紀貫

ひとのこころは移ろうもの
嘆くことはない
わたくしたちのこころは
律儀に繰り返される季節の開花に
ざわめかずにはいられない

• [編集](#)



□ 13:38:41, カテゴリ: [詩の歳時記](#), views: 995

詩の歳時記－201



コスモスを離れし蝶に谿深し

水原秋桜子

地上に揺れる秋桜に蜜を求め
そこより飛翔する一頭の蝶
微細な出来事の幽し音
深き谿にひしめく音たち
天よ耳をすませよ

* * *

しばらく「詩の歳時記」はお休みしていましたが、某所で素敵な句に出会いましたので、気まぐれに再開してみました。こんな風にして「365句」に辿り着ければ、幸福な道のりになるかもしれませんね。

[5コメント・編集](#)

2008/10/13

13:38:05, カテゴリ: [百人百詩](#), views: 612

百人百詩一034



誰をかも知る人にせむ高砂の松もむかしの友ならなくに

藤原興風

地上への永い滞在時間を赦されて
松は高砂に在す
ひとのいのちははかなきもの
ひとり生き残された寂しさ
かの見知らぬ樹に告げようか

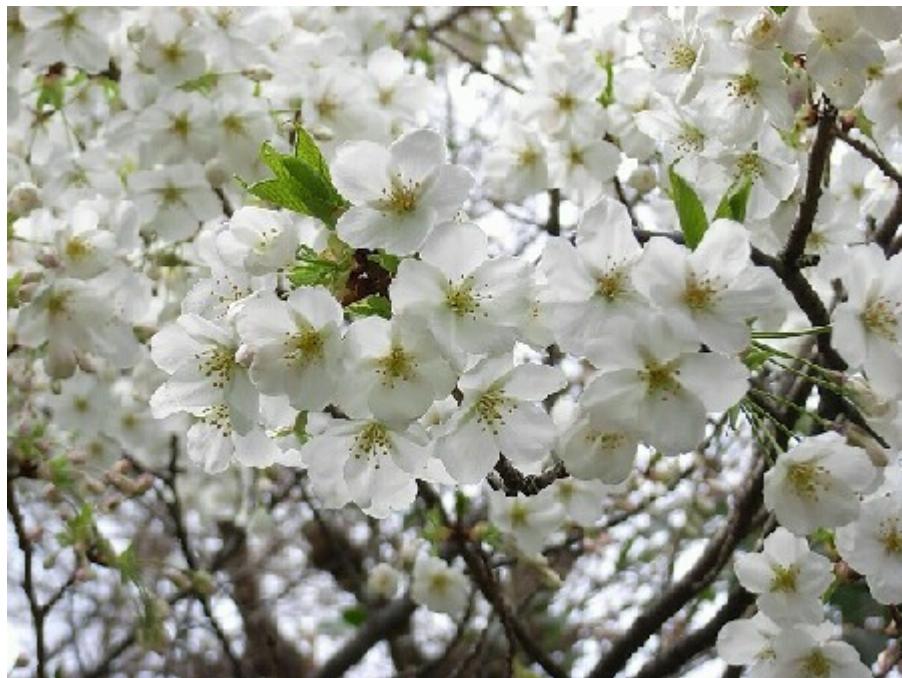
・編集



2008/10/10

20:51:46, カテゴリ: [百人百詩](#), views: 735

百人百詩—033



久方の光のどけき春の日にしづ心なく花の散るらむ
則

紀友

あまたのひとの心を託されて
花びらは風に散ってゆく
かろやかに ゆっくりと
やわらかな光のなか
ちいさな影を描きながら

[2コメント](#) • [編集](#)



2008/10/08

□ 15:00:19, カテゴリ: [百人百詩](#), views: 752 | ●

百人百詩一032



山川に風のかけたるしがらみは流れもあへぬ紅葉なりけり
春道列樹

山を降りる川の流れに
紅葉のたまり
あれは柵（しがらみ）のせいではない
風がおし留めているのだろう
ひとのこころの熾火のような……

• [編集](#)



2008/10/06

□ 23:09:44, カテゴリ: [百人百詩](#), views: 819 | ●

百人百詩一031



朝ぼらけ有明の月と見るまでに吉野の里にふれる白雪
是則

坂上

月がくだけて
微小な欠片となって
一夜を絶え間なく降りつづいたのか
朝の窓辺に
明るい淡雪

[2コメント](#) • [編集](#)



2008/10/04

□ 22:39:42, カテゴリ: [百人百詩](#), views: 675

百人百詩—030



有明のつれなく見えし別れより暁ばかり憂きものはなし
壬生忠岑

淡いあけがたの月よ
こひびととの一夜の記憶は
いつまでも消えかねている
去っていかれた方の
背を照らしていたひかりに似て

・[編集](#)



2008/10/03

□ 18:18:18, カテゴリ: [百人百詩](#), views: 632

百人百詩一029



心あてに折らばや折らむ初霜の置きまどはせるしら菊のはな
河内躬恒 凡

凍てつく朝の庭
まぶしい純白のうたげ 初霜 白菊
触れることをためらう
わたくしの冷えた手には
冬の訪問者の手が重なっていました

• [編集](#)



2008/10/02

02:20:30, カテゴリ: [百人百詩](#), views: 640 

百人百詩一028



山里は冬ぞさびしさまさりける人目も草もかれぬと思へば 源
宗于朝臣

ひとつひとは離（か）れる
樹々は枯れる
冬の山里には
風が音をたてる
淡い陽が遠くから届くようだった

• [編集](#)



Original template design by [François PLANQUE](#).

